

## 1. 研究報告書の構成

- 第1章 問題の所在と研究の目的
- 第2章 研究の方法
- 第3章 障がい理解教育の意義
- 第4章 障がい理解を促進するにあたってのプログラムの必要性
- 第5章 障がい理解を促進するプログラム試案
- 第6章 総括と今後の課題

## 2. 研究の概要

### (1) 問題の所在と研究の目的

平成16年6月に障害者基本法が改正された。その内容は、障がいのある児童と障がいのない児童との交流及び共同学習を積極的に進めることによって、その相互理解を促進しなければならないというものである。これを受けて、平成20年度版学習指導要領総則においては、「障害のある児童との交流及び共同学習は、児童が障害のある児童とその教育に対する正しい理解と認識を深めるための絶好の機会であり、同じ社会に生きる人間としてお互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶ場でもある」と明記されている<sup>1)</sup>。

このように、今後の教育の方向性として、障がいのある児童と障がいのない児童との交流および共同学習の中で、障がいに関することや障がい児の理解に関する教育を行うことが今後重要視されるのである。

障がい理解教育について、徳田(2005)は、障がい理解教育の実践や研究に関して、期間が短く、主観的であり、分析等の研究の視点がずさ

りであることを指摘している<sup>2)</sup>。

すなわち、障がい理解教育を教育実践レベルへ具現化するためには、実践を通じた改善の繰り返しだけでなく、長期的な視野に立った授業化の視点の一般化が不可欠だということである。さらに、教育実践が意図的なものとして、教育現場で教師に共有された形で実施されるためには、カリキュラムとして準備されることが求められる。

しかしながら、カリキュラム作成においては、授業時数の配当や各教科の指導計画の作成等、多岐にわたる。したがって、障がい理解教育という内容を限定し、だれが、いつ、どの段階で、障がい理解教育のどのような内容を実践化していくのかということを経段的に配置していく、カリキュラム作成に至る前段階的なプログラムが重要となるのである。

そこで、本研究にあたっては、小学校段階における障がい理解を促進するカリキュラム作成を実現するためのプログラムの内実を明らかにすることを目的とする。学校レベルのカリキュラムと教室レベルの実践との乖離を防ぎ、各教員にプログラムを可視化することによって、カリキュラム作成への手がかりとなるようにしたい。

### (2) 研究の方法

本研究は、次の手続きにより行うものとする。まず、障がいのある児童とない児童との相互理解が促進される教育の在り方を研究している文部科学省(以下、文科省という。)の指定研究校の長期的な実践の考察を行い、障がい理解教育

に求められる授業化の視点を一般化した形で抽出する。次に、連携協力校における授業実践およびインタビューの考察を通して、障がい理解教育を公立小学校で具現化する際の問題点を明らかにする。この点を手がかりとして、公立小学校においても持続的に実施可能なカリキュラムの在り方につながるプログラム試案を作成するものとする。

なお、文科省指定研究校各校の実践を分析する枠組みとしては、徳田(2005)の障がい理解のレベルの考え方をを用いるものとする(図1)。

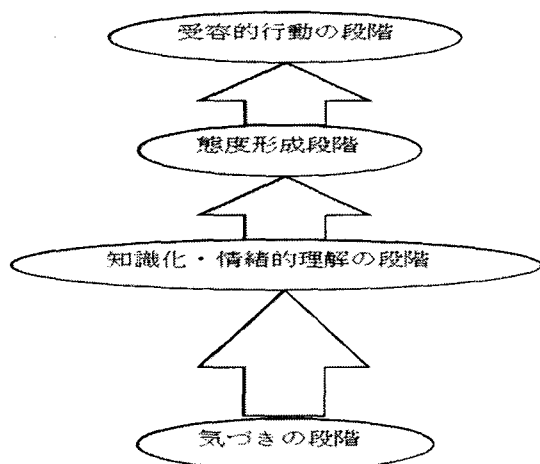


図1 障がい理解のレベル(徳田、2005)

### 3. 研究の成果

小学校段階における障がい理解を促進するプログラムについて、文科省指定研究校の先進的な教育実践研究を考察した結果、カリキュラムの枠組みとして十点の視点が明らかになった。また、公立小学校における障がい理解を促進するためのカリキュラム構築の問題点について考察した結果、プログラム化するための課題として五点が明らかになった。

以上の結果を手がかりとして、小学校段階における障がい理解を促進するプログラム試案の作成を行った。その結果、障がい理解を促進するためのカリキュラム作成にあたっては、前段階として図2に示す11項目を段階的に経る必要性が明らかとなった。

### 4. 総括と今後の課題

障がい理解を促進するプログラム試案を作成したことにより、カリキュラムを作成する点で、各段階をスモールステップとして実現させていくことが、公立小学校において障がい理解教育を実践化に導く一つの手がかりとなるものである。

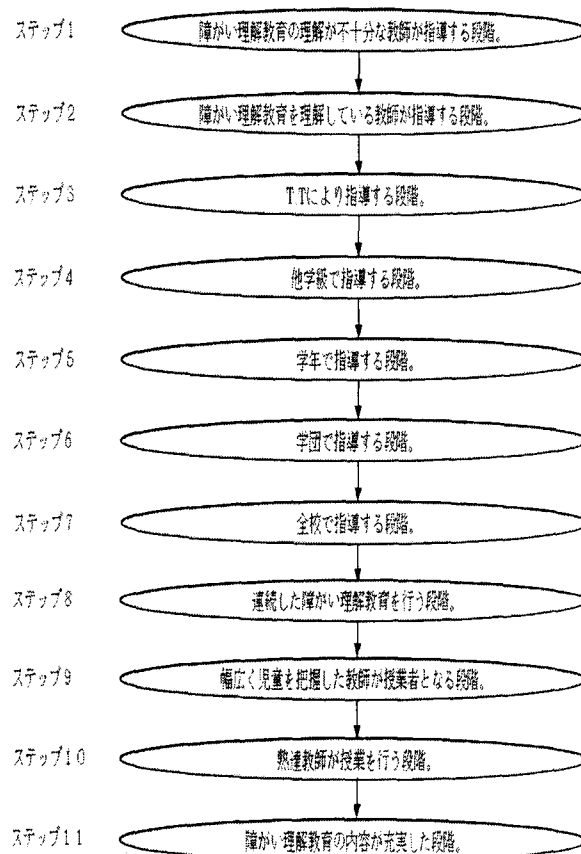


図2 障がい理解教育のプログラム試案

一方、この試案に基づいて、実践と教育効果の検証を重ね、有用なプログラムとなるようつなげていくことが重要である。この点については、筆者の今後の課題としたい。

### 5. 註及び参考文献

- 1) 文部科学省『小学校学習指導要領解説・総則編』東京書籍、2008年、p.72。
- 2) 徳田克己『障害理解 心のバリアフリーの理論と実践』誠信書房、2005年、p.274。

修学指導教員 勝見 健史